

## 中越におけるダブル災害とその予防

学会理事長 酒井

学会では下記の学際ワークショップを開催いたします。

「災害に対する安全対策および危機管理医学のあり方に関するシンポジウム」

会長：室崎益輝（消防防研究所理事長、本会名誉会員）

2005年2月24日(木)

これに当たり、現在各方面の役員に打診して、そのプログラムの編成をはじめています。今回、本会顧問の家田 仁先生(東京大学大学院工学系研究科・工学部社会基盤工学専攻社会基盤プランニング学選考長、同教授)とお話する機会がありました。家田先生には現在の中越地震に対する日本政府の調査団長として激務にあられます。先生には、地震災害に加えて豪雪による災害の危機が迫っているとのことで、ダブル災害によって被害の拡大になる、とのお話でした。つまり、「豪雪の中では、孤立して情報収集もままならず、救援物資が通常の方法では不可能である」という危機状況を迎える、とのことです。2つの災害の重複によって、その対応に疲労を更に強め、災害の連鎖反応も発生します。

すでに事故や火災に対しては警察や消防への公共的な緊急通報システムが存在します。また、陸上の交通システムが不可能な場合には、医薬品を含む救援物資の空輸・投下といった手段も存在します。中越でのダブル災害による悲劇の拡大に対する予防対策の事前整備には、このような観点からも全国的かつ各方面の協力が一層必要になっており、関係者のご支援とご協力が不可欠、との結論です。